

国 語

「現代の国語，言語文化」

下記 3 学科の**選択**受験科目

マネジメント工学科

環境安全工学科

創生デザイン学科

現代の国語、言語文化

〔二〕次の問い（問一～問五）に答えなさい。

問一 次の（１）・（２）の熟語や故事成語の説明としてもっとも適切なものを、それぞれ次の①～

④の中から一つずつ選び、解答記入欄

1

 ・

2

 にマークしなさい。

（１）奇譚 きたん

- ① 気味が悪くて恐ろしい物語や伝説
- ② 世にも珍しい面白い物語や言い伝え
- ③ 真相が定かではない物語や迷信
- ④ 斬新で不思議な物語や小説

（２）枚挙にいとまがない

- ① 次から次へと新しい考えが浮かぶこと
- ② 仕事に追われて休みが取れないこと
- ③ ひとつずつ数える時間はないこと
- ④ たくさんありすぎて数えきれないこと

問二 次の四字熟語の空欄にあてはまるものを、次の①～④の中から一つ選び、解答記入欄

3

 にマークしなさい。

一意

□

 心

- ① 専
- ② 選
- ③ 戦
- ④ 千

現代の国語，言語文化

問三 次の(1)・(2)の説明にあてはまるものを、それぞれ次の①～④の中から一つずつ選び、

解答記入欄

4

5

にマークしなさい。

(1) はがゆくてもどかしいこと

① 一毛不拔

② 異体同心

③ 隔靴搔痒 かつか 搔よう

④ 落花流水

(2) 出世ができないこと

① 一旗上げる

② 君子は器ならず

③ うだつが上がらない

④ 青菜に塩

問四 対義語の組み合わせとしてもっとも適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、解答記入

欄

6

にマークしなさい。

① 精緻 — 粗暴

② 拙文 — 能文

③ 清潔 — 廉直

④ 有用 — 不要

現代の国語、言語文化

問五 次の(1)・(2)の語句の使い方としても適切なものを、それぞれ次の①～④の中から一つずつ選び、解答記入欄

7

 ・

8

 にマークしなさい。

(1) すべからく

- ① 学生ならば、すべからく勉学に励むべきだ。
- ② 今年の農作物は、すべからく出来が良い。
- ③ 商品を購入すると、すべからくポイントが付与される。
- ④ 明日は本番だが、すべからく準備は終わっている。

(2) デフォルメ

- ① パソコンに不具合が起きたのでデフォルメに戻した。
- ② 名画をデフォルメしたデザインが人気になった。
- ③ 自然の風景をそのままデフォルメした絵画。
- ④ 朝の散歩がデフォルメになっている。

現代の国語、言語文化

〔二〕次の問い（問一～問二）に答えなさい。

問一 次の問題文（１）～（３）について、文意に照らして正しいものを、それぞれ次の①～④の中から一つずつ選び、解答記入欄

 ～

 にマークしなさい。

（１） かつて火星は生命がいてもおかしくないとされていたが、火星起源の隕石いんせきに含まれた鉱物を調べたところ、火星表層は極端な環境であったことがわかった。

- ① 従来、火星は生命が住める環境だと考えられていた。
- ② 火星の表層に生命が存在している可能性はなくなった。
- ③ 火星に存在する生命は過酷な環境にも耐えることができる。
- ④ 隕石からは火星の表層に含有される鉱物が発見された。

（２） 干ばつが続く米国のコロラド川の水の使用量を分析したところ、農業のための灌漑かんがいが、人間の直接的使用の74%、総使用量の52%を占めていたことがわかった。

- ① コロラド川で農業の灌漑以外に使われる水は、人間の総使用量の半分以上である。
- ② 水不足を避けるためには農業のための使用を制限することが効果的である。
- ③ コロラド川の水の総使用量の約5割が農業の灌漑に使用されている。
- ④ 米国のコロラド川の水の約20%は直接的使用以外で失われている。

（３） 脱炭素社会の実現に向けて、水素エネルギーの利用が世界各国で検討されている。しかし、製造や輸送の過程で水素の一部が大気にもれると、強力な温室効果ガスであるメタンの大気中濃度が増し、温暖化がかえって進行することになる。

- ① 水素エネルギーを効果的に利用するためには、水素がもれて大気に拡散することを防ぐ技術の整備が必要である。
- ② 温暖化の進行は大気中のメタンの濃度の上昇が原因の一つであり、大気に水素がもれると速まるおそれがある。
- ③ 水素エネルギーを安定して作り出し供給するシステムなくして、脱炭素社会を実現することは難しい。
- ④ 温暖化対策として水素の利用が必要とされているが、製造や輸送の過程で大気中の水素濃度が増えると温暖化が進むおそれがある。

現代の国語、言語文化

問二 次の問題文を読んで、後の問い(1)～(3)に答えなさい。

アンデス山脈と太平洋に挟まれたチリ北部のアタカマ砂漠には、赤みがかったオレンジ色の岩山と峡谷が果てしなく広がっている。ここは地球上で最も乾いた砂漠の一つで、天文ファンが一度は訪れたいと憧れる、美しくさえわたった星空が見られる場所だ。

だがアタカマ砂漠には、とても美しいとはいえない一面もある。ここは世界中から捨てられた衣類が集まる、ごみ捨て場^①なのだ。衣料廃棄物が急増したのは、「ファスト・ファッション」^②として知られる安価な衣料品の大量生産が急速に進んだことが背景にある。衣料廃棄物の量は、国連が「環境と社会の緊急事態」と呼ぶレベルに達している。蛇口^③を閉めて、その流れを止めることが課題だ。

2000～14年の間に、衣料品の生産量は2倍に、消費者の購入量は6割増えたが、着用期間は半分に減った。製造から1年以内に処分場や焼却炉に行き着く衣類は、全体の5分の3と推定される。毎秒、トラック1台分の古着が、廃棄または焼却されていることになる。

処分施設の大半は南アジアかアフリカにあり、どの国も受け入れた量を処理しきれない状態だ。ガーナの首都アクラの郊外にある埋め立て地には、高さ20メートルにもなる廃棄物の山があるが、その6割が衣類といわれており、危機的状況の象徴として世界的に知られている。

チリ北部の光景は、あるオンライン動画で「ファッションごみベルト」と呼ばれている。海の漂流ごみが集中する「太平洋ごみベルト」の陸上版という意味だ。アルト・ホスピシオという人口12万人の貧しい都市の郊外には、さまざまなブランドのラベルが付いた衣料廃棄物の巨大な山が、見渡す限り広がっている。

二〇二四年三月二九日『ナショナルジオグラフィック日本版』より

※問題作成の都合上、文章の一部を改変した

(1) 問題文において主旨を展開する前提となっていることを、次の①～④の中から一つ選び、

解答記入欄 12 にマークしなさい。

① チリ北部での衣料廃棄物が急増し、処理場には大量の衣類がうずたかく積みまれている。

② 岩山と峡谷が広がる砂漠地域にまで、消費社会の拡大による環境問題が及んでいる。

③ 美しい星が見られるアタカマ砂漠は、世界中から産業廃棄物が集まる場所でもある。

④ ファスト・ファッションと呼ばれる安価な衣料品が大量に生産されるようになった。

現代の国語、言語文化

(2)

問題文の結論を導く根拠として正しいものを、次の①～④の中から一つ選び、解答記入欄にマークしなさい。

13

- ① 衣類の生産量や消費量が増加する一方、製造から1年以内に廃棄されるものが全体の半数以上を占め、処分施設の大半が処理しきれない状態である。
- ② ガーナの首都アクラの埋め立て地では、6割が衣類でできた廃棄物の山が高くそびえ立ち、衣料廃棄物の量が危機的状況であることを象徴している。
- ③ 着用期間の短い衣料品が毎秒トラック一台分も廃棄されており、そのほとんどが南アジアやアフリカの処分施設へ運ばれている。
- ④ 2000年代に入り、消費者の衣料品の購入量は増加しているが、購入された衣類の5分の3は製造から1年以内に処分されている。

(3)

問題文の結論として正しいものを、次の①～④の中から一つ選び、解答記入欄にマークしなさい。

14

- ① アタカマ砂漠の衣料廃棄物の問題は、衣料品の生産量を制限し、廃棄物の流れを止めることで改善される可能性がある。
- ② 衣料廃棄物の山が広がる光景は、海の漂流ゴミと同じく「ごみベルト」と形容され、オンライン上で話題となっている。
- ③ 衣服を手放すまでの期間が短くなったことで、処分する衣類が増え、貧しい都市に衣料廃棄物の山が広がる状況が生まれた。
- ④ ファスト・ファッションの急速な拡大と衣料品の廃棄物の増加が、環境および社会的な緊急事態を引き起こしている。

現代の国語、言語文化

〔三〕次の問題文を読んで、後の問い（問一～問十二）に答えなさい。

2017年にヒト生殖細胞系列のゲノム編集を許容する方針を打ち出したときの米国^{*1} N A S E Mの委員で、生命倫理の専門家ジョン・エヴァンスは、現状のまま生殖細胞系列の遺伝的改変技術の安全性と効力が確立した場合、社会は「^{*2}ディストピアのどん底への転落」を免れないだろう、と述べている。それを防ぐのは、遺伝的最低水準を満たすレベルと社会的優位性を与えるレベルの間

——「^A滑りやすい斜面」の間に、落下を防ぐ防護壁を築くことだという。病気であれ知能であれ、遺伝的特質によって不利な立場に置かれる子供たちを、「遺伝的最低水準」と呼ぶ水準に引き上げて、「平等な機会」を与えるのを許容する一方で、運または努力で得る以上の社会的優位性を個人に与え、ほかには何ら利益をもたらず、競争の暗黙の目標を損なうような遺伝的強化を阻止するのである。

^B歯止めを欠いた遺伝的強化の未来がディストピアである理由として、エヴァンスは遺伝的強化が実質的に^{*3}優生学である点を挙げている。個人と社会、義務論と功利主義という遺伝的強化と優生学の間の壁はとうに崩れたというのである。遺伝的強化をめぐる過去の議論や状況の推移も、優生学の歴史——倫理と技術の防護壁が次々と消失し、気づいたときにはナチスのサンゲキ^(ア)に向かって「滑りやすい斜面」を転げ落ちていった歴史と重なるという。悪魔が再び^{よみがえ}蘇るのである。

確かに社会から偏見や差別、能力主義が消える見込みは乏しく、むしろ蔓延^{まんえん}している状況では、多くの個人の選択の総体として、^C自滅的な優生学化が進む恐れがある。人々の未来への可能性が遺伝的に閉ざされたカースト社会が実現するかもしれない。これは自由、平等、人権という現在の価値観、道徳観に反する世界である。

だが遺伝的強化を支持できない理由がほかにもある。

現実には、一部の性質を除けば、後天的要素の役割の大きさや遺伝子制御ネットワークの複雑さゆえに、期待通りの遺伝的強化は不可能かもしれない。不可能ならそれでよいが問題なのは、知識に基づいて可能か不可能かを判断すること、さらにリスクを把握することの困難さである。優生学の歴史では、知識より実践が優先され、リスクより利益が重視された。これは現代の様々な科学技術^(イ)セイサクで共通に認められる傾向でもある。

体細胞の遺伝子改変なら誤りが起きても、その誤りによる悪影響は患者の死とともに終わるが、生殖細胞系列で起きた誤りの悪影響は、子孫に受け継がれる。それが遺伝子プールに広がれば收拾はほぼ不可能となる。流行に合わせて多くの人々の遺伝的改変が行われる結果、次世代とそれ^(ウ)イコウの個人と遺伝子プールに大きく急で、予測と修復が困難な遺伝的変化を不可逆的に生じるかもしれない。

遺伝的な変異を不可逆的に失い、進化的な可能性が奪われる恐れもある。遺伝的に均一化し^せ脆弱化した、農作物品種のようになるのだ。いわゆる^D進化のデッドエンドである。

現代の国語、言語文化

持続可能性という現在の価値観、道徳観を大事にするのであれば、このように修正が利かない不可逆的な操作——先天的な資質を改変して、個体と社会の性質を急激に大きく変えるような操作、後戻りできない操作、未来の可能性を奪うリスクのある操作は、可能な限り避けたほうがよいだろう。

還元主義からの脱却が難しい生物学者は、人間社会のような高次の系を思い通りに予測し、操作できるなどと考えないほうがよい。ジョン・デュプレが指摘するように、還元主義は複雑な系の振る舞いの説明はできるが、正確な予測はできない。

己の無謬^{ひびゅう}を信じる者がカイカク^(E)を進めた社会や組織は悪くなる——これが優生学の歴史が語る教訓である。社会や人々の「改善」を願うなら、結局最も人間的かつ平凡な方法で——様々な価値観・立場の人々との対話と合意を経て、方針を決めたら、信頼できる記録やデータ、観察事実をもとに、考え、試し、様子を見て、誤りを正しながら、少しずつ進めるしかない。私たちに必要なのは、大きなプランを進める前に、レンガを一つ置いてみることであろう。

そもそも私たちは私たちの事実をもっと知らねばならない。実用的な科学知識だけではなく、自分自身を知りたいから知るための科学知識が必要なのだ。ヒトは、どう進化してきたのか。またヒトの性質はどう決まり、形づくられるのか。私たちは、もっと私たち自身をつくる仕組みやその進化のことを知らなければならない。

真理に近づくという目的で進化学は輝く。

P

けではない。幸福か不幸かはまた別の話だ。

Q

真理には力がある。もし偏見や差別の理由が真理からほど遠いにもかかわらず真理だと偽っているなら、それに対抗するのは、実用性を期待されてはいなくとも、真理に接近している科学であろう。

もしその役割を捨て、一つの呪いの先兵となり、遺伝的強化であれトランスヒューマニズム^{*5}であれ、単純でわかりやすいモデルで進むべき未来と必要性を語り、自由と平等を求める人々に闘いと進歩を煽り、それが自然の法則だと騙すなら、それは過去の優生学と同じくディストピアへの一本道である。

(中略)

過去の優生学の目的が持つ誤りの根本は、「^Gである」「^Gべき」のギャップを、飛び越えてしまった点にある。進化の事実や人間の能力が遺伝的に決まるという生物学の事実、あるいは動物を育種できるという事実から、人間の能力を進化的に改善すべき、という価値判断を、社会的に共有される自明な価値観による橋渡しをしないまま導いた点だ。この飛躍ゆえに、それとわからぬ形で偏見と差別意識がギャップに橋をかけたのである。ただし、^H進化が無方向で生物に本質的な優劣がないのを、平等や反差別を訴える理由にするのも同じく誤りである。平等と反差別は、科学的事実とは無関係に重視すべきものである。

この科学的事実から価値判断や規範への論理的飛躍こそ、「^{*6}ダーウィンの呪い」の中核である。

現代の国語、言語文化

神のセツリなら規範を導けるが、科学的事実は違(オ)うのだ。

千葉聡『ダーウィンの呪い』より

※問題作成の都合上、文章の一部を改変した

*1 NASEM 全米科学・工学・医学アカデミー。

*2 デイストピア 反ユートピア。

*3 優生学 優良な遺伝的形質のみを保存し、それ以外は淘汰(ちた)していくとする考え方。

*4 ジョン・デュブレ イギリスの科学哲学者(一九五二)。

*5 トランスヒューマニズム 超人間主義。

*6 ダーウィンの呪い ダーウィンの進化論が、後の思想に影響を与えたことの負の面について追及する考え。

問一 二重傍線部(ア)～(オ)と同じ漢字を含むものを、それぞれ次の①～④の中から一つずつ選

び、解答記入欄 15 ～ 19 にマークしなさい。

(ア) サンゲキ

- ① カンゲキを縫って進む
- ② 受験生をゲキレイする
- ③ ハンゲキに出る
- ④ エンゲキを鑑賞する

(イ) セイサク

- ① 駅前をサンサクする
- ② キーワードをケンサクする
- ③ サクイ的な行為
- ④ 視線がコウサクする

(ウ) イコウ

- ① 大臣をコウテツする
- ② 新しい法律がシコウされる
- ③ 武器を捨ててトウコウする
- ④ シュコウを凝らした作品

(エ) カイカク

- ① 合成ヒカクのくつ
- ② 長年にわたるカクシツ
- ③ 新イベントをキカクする
- ④ 問題のカクシンを突く

現代の国語、言語文化

(オ) セツリ

- | | |
|---|------------|
| ① | セツソウのない行い |
| ② | 栄養をセツシユする |
| ③ | オウセツ室に通す |
| ④ | 卓球部をソウセツする |

問二 傍線部A「『滑りやすい斜面』」とは、この場合どのようなことを意味しているか。もつとも適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、解答記入欄 20 にマークしなさい。

- ① 遺伝的最低水準を満たす遺伝的変化と社会的優位性を与える遺伝的強化は、同じ技術によって可能であるということ。
- ② 社会的優位性を与えるような遺伝的変化を認めてしまうと、その変化を行えるかどうかで格差が生じてしまうこと。
- ③ 遺伝的変化によって遺伝的特質による不利益をなくすことを認めると、遺伝的強化を行うことへの抵抗も少なくなること。
- ④ 子供たちの不利益をなくす遺伝的変化を認めることは、社会的優位性を与える遺伝的強化を認めるのと同じだということ。

問三 傍線部B「歯止めを欠いた遺伝的強化の未来がディストピアである」とあるが、「ディストピア」とは、この場合どのような社会を意味しているか。もつとも適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、解答記入欄 21 にマークしなさい。

- ① 遺伝的変化が許容され、一部の人だけが遺伝的強化を行えるようになった社会。
- ② 偏見や差別、能力主義が維持されたまま、遺伝的変化が許容されるようになった社会。
- ③ 自由、平等、人権という現在の価値観、道徳観が別のものになってしまう社会。
- ④ 遺伝的に人々の未来が閉ざされた、自由や平等、人権といった価値観に反する社会。

現代の国語、言語文化

問四

傍線部C「自滅的な優生学化」とはどのようなことか。その説明としてもっとも適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、解答記入欄 22 にマークしなさい。

- ① 偏見や差別、能力主義を許容し、自由や平等、人権などが保障されないような社会を、人々が自ら望んで実現しようとする事。
- ② 権力による押しつけではなく、人々自身の選択の結果として、偏見や差別、能力主義が当然の社会へと変わっていくこと。
- ③ 遺伝的に優れているとされる人間だけが残っていくような社会を、人々が自分たち自身の選択によってつくりあげていくこと。
- ④ 優良とされる遺伝子をもつ人間以外は、子孫を残して自身の遺伝的形質を後世に引き継がせることができなくなる事。

問五

傍線部D「進化のデッドエンド」について、「デッドエンド」とは「行き止まり」のことだが、その説明としてもっとも適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、解答記入欄 23 にマークしなさい。

- ① 遺伝子改変上の同じ誤りが、生殖細胞系列において多数の人に生じること。
- ② 遺伝子改変の誤りが生殖細胞に起き、不可逆的に子孫を残せなくなること。
- ③ 遺伝的強化に様々な流行が生じ、把握できないほど急激に多様化すること。
- ④ 遺伝子改変を行えない人々が脆弱化し、生き残ることができなくなること。

問六

傍線部E「私たちに必要なのは、大きなプランを進める前に、レンガを一つ置いてみることであろう」とあるが、なぜそのようなようにする必要があるのか。その理由としてもっとも適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、解答記入欄 24 にマークしなさい。

- ① 複雑な系である人間社会の振る舞いを、正確に予測することはできないから。
- ② 自分の知識や考えを過信することは、優生学を肯定することを意味するから。
- ③ 社会や人々の「改善」は地道な作業の積み重ねであり、時間がかかるから。
- ④ 大きなプランは、様々な人々から合意を得なければ前に進められないから。

現代の国語、言語文化

問七

傍線部F「私たちは私たちの事実をもっと知らねばならない」とあるが、それはなぜか。その理由としてもっとも適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、解答記入欄 25 にマークしなさい。

- ① 実用的な科学知識は真理のような力を持たず、偏見や差別を助長してしまうから。
- ② 私たちの性質やその進化のことを、実用的な科学知識から学ぶことはできないから。
- ③ 私たち自身を探究する進化学こそ、最も真理に近づいている科学だと言えるから。
- ④ 進化学にこそ、単純でわかりやすいモデルに対抗する力があると言えるから。

問八

空欄 P・Q に入る語句の組み合わせとしてもっとも適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、解答記入欄 26 にマークしなさい。

- | | | |
|---|--------|-----------|
| ① | P もちろん | Q したがって |
| ② | P そのため | Q にもかかわらず |
| ③ | P ただし | Q それでも |
| ④ | P よって | Q もちろん |

問九

傍線部G「『である』『べき』のギャップを、飛び越えてしまった」とはどのようなことか。その説明としてもっとも適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、解答記入欄 27 にマークしなさい。

- ① 誤った科学的事実の認識に基づいて、偏見や差別を正当化したこと。
- ② 科学的な事実から、直接的に価値判断や規範を導いたこと。
- ③ 価値判断や規範を、科学的な事実を無視してつくりあげたこと。
- ④ 物事の価値や規範を考慮せず、科学的な事実を重視したこと。

現代の国語、言語文化

問十

傍線部H「進化が無方向で生物に本質的な優劣がないのを、平等や反差別を訴える理由にするのも同じく誤りである」とあるが、これと合致する説明としてもっとも適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、解答記入欄 28 にマークしなさい。

- ① 生物学的事実と違って、平等や反差別といった規範には本質的な優劣が存在しない。
- ② 進化は無方向的なものだが、平等や反差別といった規範の拡大には方向が存在する。
- ③ 平等や反差別の正しさの根拠に生物学的事実を用いることには、論理的な飛躍がある。
- ④ 生物学的事実から平等や反差別を導くことは、偏見や差別を生み出すことにつながる。

問十一

問題文の内容に合致するものを、次の①～⑥の中から二つ選び、解答記入欄 30 にマークしなさい。

29

- ① デイストピアの到来を避けたいなら、生殖細胞系列の遺伝的変化は許容すべきではない。
- ② 生殖細胞系列の遺伝的変化技術の確立は困難ではあるが、時間の問題だとも言える。
- ③ 遺伝子の変化は不可逆的であるため、そのリスクはしっかりと考慮する必要がある。
- ④ 生殖細胞系列の遺伝的変化は、持続可能性を考えて慎重に進めていくべきである。
- ⑤ 遺伝的強化を無制限に認めるということは、幸不幸の問題とは別の話である。
- ⑥ 現代の様々な科学技術研究において、リスクより利益を重視する傾向が見られる。

問題文に関する著作権の都合上、非公開となります